

# スポーツ×情報、農業×情報で 新たな価値を生み出す人材を育てる

中央大学は、2027年4月にスポーツ情報学部(仮称)、2028年4月に情報農学部(仮称)を多摩キャンパスに新設する予定です。両学部とも、人工知能(AI)やデータサイエンスを活用し、社会課題を解決に導くための先進的な学びを展開します。これまでにない新たなアプローチと実践的な学びを通じて、多様な現場で活躍できる専門知識と実践力を備えた人材の育成を目指しています。

## スポーツ情報学部(仮称)\*

### スポーツのデータを通じて 分析・解決・応用力をつける

スポーツ情報学部(仮称)は、スポーツ「を」学ぶのではなく、スポーツ「で」学ぶことに特徴があります。「スポーツの現場で得られるデータを教材として、データサイエンスとビジネスの両方の知識を習得することを目的にしています」と、渡辺岳夫開設準備室室長は語ります。

スポーツを対象とした理由の1つは、学習効果を高めやすい点にあります。多くの若者が関心を持つスポーツを題材にすることで、意欲的

に学業に取り組むことができます。さらに、結果が出るまでのスパンが短いことも利点です。1試合であれば数時間、1シーズンでも数カ月で結果が表れます。課題設定→実行・検証→その結果をもとに改善するPDCAサイクルを高速で回せるため、多くの経験を積めます。

学部では、スポーツ情報学科の下に「データサイエンス(DS)コース」と「スポーツビジネス(SB)コース」を設置。両コースとも1、2年次にAI・データサイエンスと経営学・経済学の基礎理論を学び、2年次までに文部科学省が定める「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」で求められる能力の習得が可能です(認定制度申請予定)。3、4年次には、DSコースでデータサイエンティストとしての実践力を、SBコースでスポーツビジネスの現場での課題解決力を養います。また、プロスポーツ組織や企業と連携し、1~4年次を通して課題解決型学習(PBL)に取り組みます。

### 失敗から学び、 課題解決力を育む

「スポーツ情報学部は『失敗できる学部』。失敗こそが真の学びです」と、渡辺室長は強調します。



スポーツ情報学部(仮称)・情報農学部(仮称)の設置が予定されている多摩キャンパス

「問題を解決するために最も大切なのは、課題を特定する『立問力』です。さらに、仮説を立てる『発想力』、導き出した答えに新たな価値を加える『変革力』も必要。その力を蓄えるには、何度も行動し失敗し、そこから洞察を得る経験が欠かせません。失敗はチャレンジした証であり、成功への道程なのです。」

スポーツという特定分野で培ったデータサイエンスとビジネスの知識や能力は、スポーツ産業だけでなく、情報・通信、金融・保険、コンサルティング、製造、官公庁など、幅広い分野で活躍が期待されます。スポーツ×情報を通じて、社会課題を発見し、イノベーションの糸口を生み出す人材の育成を目指しています。



中央大学  
スポーツ情報学部(仮称)開設準備室  
渡辺岳夫 室長

\*2027年4月開設予定(認可申請中)のため、掲載内容は予定であり、変更になる場合があります。

## 新学部特設サイト



### スポーツ情報学部(仮称)

新学部の紹介や中央大学硬式野球部の打撃データを利用した体験型スペシャルコンテンツを掲載しています。



### 情報農学部(仮称)

カリキュラム紹介や身近な問題と情報農学部(仮称)の学びの関わりを解説するコラムなどを掲載しています。



## 情報農学部(仮称)\*

### テクノロジーを活用し 農・食・環境の未来を創造する

情報農学部(仮称)は、「農家を育てる学部」ではなく、「農・食・環境」の分野を舞台に、AI・データサイエンスなどの最新テクノロジーを活用しながら、社会課題を解決に導くための先進的な学びを展開する学部です。

日本の農業は、担い手の高齢化、耕作放棄地の増加、気候変動など、さまざまな問題に直面しています。そうした課題を解決するには、「従来

の農業の常識を覆す必要がある」と、斎藤正武開設準備室室長は話します。「これからの農業では、スマート農業を例としたデジタル技術と農業の融合が不可欠です。情報科学やAI、データサイエンスなどを駆使し、持続可能な農業、および農から連なる食や環境の未来を担う人材が必要になります」。

そのための技術と知識を持つ人材を育成するため、基礎から実践、専門へと段階的に学びを深めるカリキュラムを展開します。1、2年次には、農・食・環境分野や情報科学の基礎を学び、農業関連の法律や政策に触れることで法的素養を養います。

### 実学と専門的な学びで 問題意識と解決力を養う

情報農学部(仮称)の象徴的な授業である2年次の「アグリ・チャレンジ・プログラム」では、約6週間、国内各地の農家、自治体、企業に滞在。生産だけでなく、加工や流通、販売などの現場を経験します。事前に地域の特性をリサーチしたうえで現場に臨むことで、問題意識と解決のための実践力を育みます。

3年次からは、最先端テクノロジーで新しい農業を創る「アグリテッ

クコース」、おいしいセカイの持続可能性を追求する「フードサイエンス・マネジメントコース」、農業と環境の最適化を目指す「環境システムコース」の3つのコースに分かれ、農・食・環境分野の専門性を深めていきます。「各分野のスペシャリスト、政策立案や支援に携わるジェネラリスト、新しい事業や価値を創出するアントレプレナーといった人材を、社会に送り出していきたいと考えています」と斎藤室長は抱負を語ります。期待される卒業後の活躍の場は、農業関連企業・団体をはじめ、食品関連企業や公務員、IT企業、総合商社、コンサルティング業界、スタートアップ企業など多岐にわたります。確かな情報技術と専門知識を身に付け、社会に新たな価値を生み出す人材の育成を目指しています。「課題に対して自ら取り組み、『農・食・環境の未来をデザインする』ことを目指す、意欲のある学生をお待ちしています」。

「各分野のスペシャリスト、政策立案や支援に携わるジェネラリスト、新しい事業や価値を創出するアントレプレナーといった人材を、社会に送り出していきたいと考えています」と斎藤室長は抱負を語ります。期待される卒業後の活躍の場は、農業関連企業・団体をはじめ、食品関連企業や公務員、IT企業、総合商社、コンサルティング業界、スタートアップ企業など多岐にわたります。確かな情報技術と専門知識を身に付け、社会に新たな価値を生み出す人材の育成を目指しています。「課題に対して自ら取り組み、『農・食・環境の未来をデザインする』ことを目指す、意欲のある学生をお待ちしています」。



中央大学  
情報農学部(仮称)開設準備室  
斎藤正武 室長

\*2028年4月開設予定(設置構想中)のため、掲載内容は予定であり、変更になる場合があります。

大学DATA

行動する知性。



広報室

〒192-0393

東京都八王子市東中野742番地1

<https://www.chuo-u.ac.jp/>